

付録 2 VSCode の拡張機能

VSCode にはいろいろな目的に特化した拡張機能がマイクロソフトや各プログラミング言語の開発元、第3者などから提供されています。ただ、使い方が独特だったり、依存するソフトウェアがあったりというものも少ないので、本書では拡張機能の導入については説明していません。この付録で少し紹介しますので、関心のある方は試して見ると良いでしょう。

拡張機能の探し方

●サイドバーに「拡張機能」の画面を表示

本書では VSCode の「アクティビティ・バー」のうち「エクスプローラ」「検索」「実行とデバッグ」のボタンを説明しましたが、図 1 に示す「拡張機能」のボタンを押すと、サイドバーに、お薦めの拡張機能の一覧が出てきます。

実は、第 1 章で VSCode を日本語環境にしたとき、すでにマイクロソフトの作成した日本語環境の拡張機能がインストールされています。それが「インストール済みの拡張機能」として表示されています。

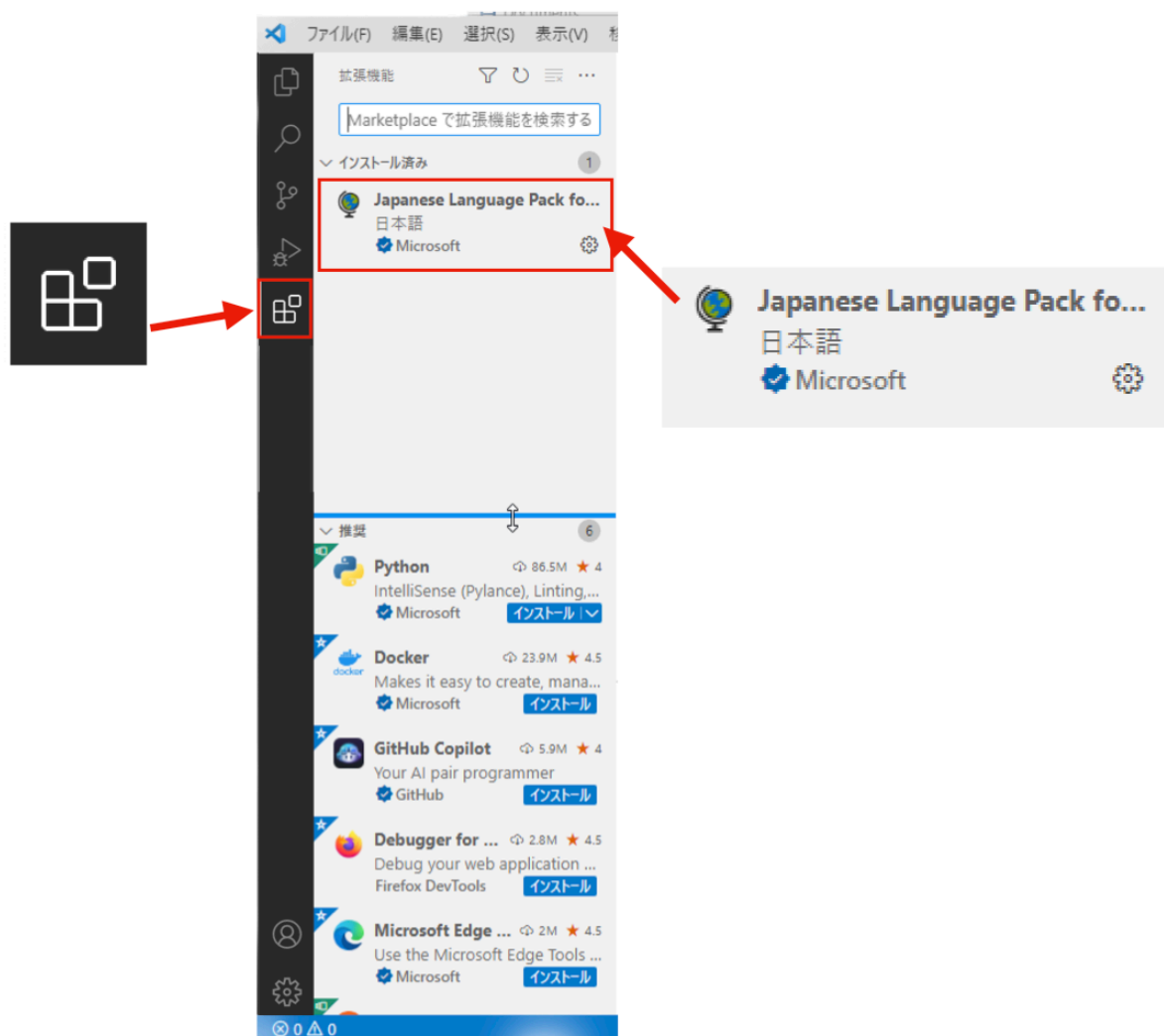


図 1 「サイドバー」に表示させた拡張機能一覧。すでに「日本語環境」はインストールした

●本書で使えるような拡張機能「Microsoft Edge Tools for VSCode」

図 1 でお薦めに上がっている拡張機能の一覧の中に「Microsoft Edge Tools for VSCode」があります。図 2 に示すこれは、VSCode の中で Microsoft Edge での実行をプレビューできる機能です。ブラウザさえも使わず、本書をすべて VSCode のワークベンチの中で実行できます。そして、かなり重要なこととして、発行元がマイクロソフトです。

本書で使わなかった理由は、高機能過ぎて、ナニナニの機能を用いるにはナニナニの機能インストールしなければならないなどいろいろ通知をしてくるためです。

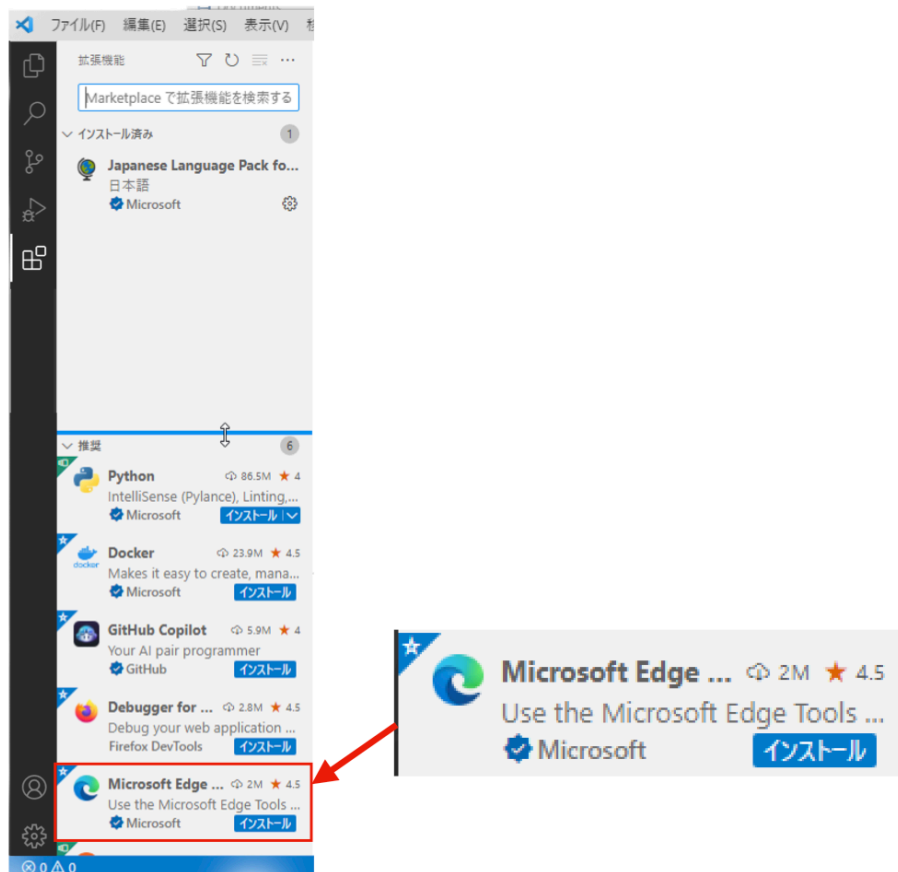
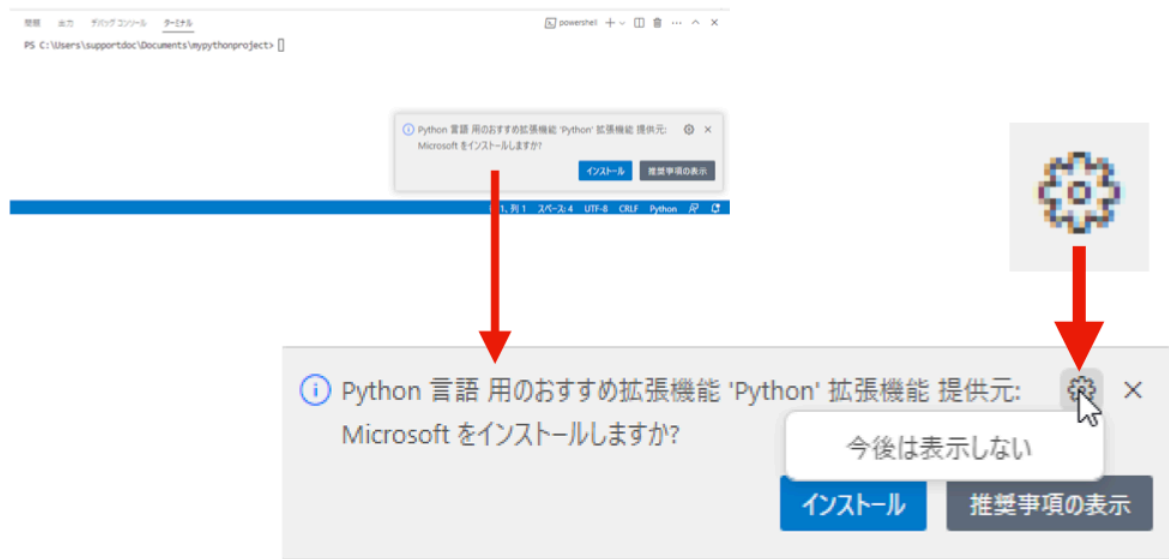


図 2「Microsoft Edge Tools for VSCode」の拡張機能

●VSCode から通知が来ることもある

たとえば Python プログラムを VSCode で編集しようとする、VSCode から「Python の拡張機能があります」と通知が来ます。この図 3 のような通知が有用か、不要かは人次第でしょう。通知をしないように設定しても、図 1 のように拡張機能を表示させたり検索したりすれば必要な拡張機能は探せます。



おことわりする場合

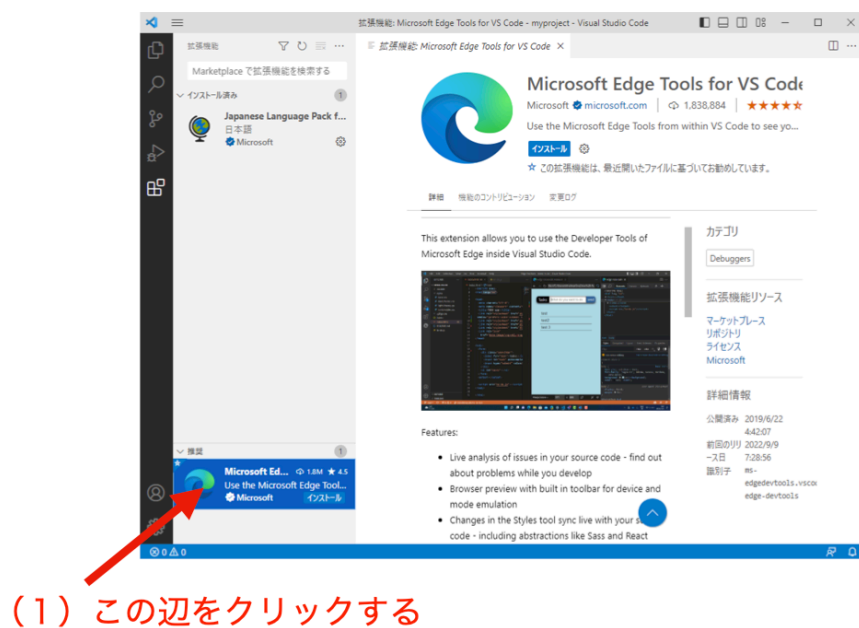
図 3 VSCode から拡張機能を推薦してくる

拡張機能のインストール

●まず詳細を見てから

拡張機能のインストールには、まず詳細の確認が必要です。狭いリストの中で「インストール」ボタンを押さないで、図 4 のようにまずそれ以外の場所をクリックし、エディタの領域上に拡張機能の詳細を表示させます。

(2) 詳細画面が出る



(1) この辺をクリックする

図 4 すぐにインストールせず、詳細を表示させる

●主なチェック項目

図 4 の詳細画面では、図 5 のようにいくつかの項目をチェックするとよいでしょう。

- ・発行元...マイクロソフト、プログラミング言語の正規開発元など、所属のハッキリしている箇所がより確実です。
- ・初回リリース時やバージョン...数年にわたり、定期的にバージョンアップがされていると、不具合も少ないと期待されます。
- ・ダウンロード数...多くの人がダウンロードしていると、定評があると考えられます。

こうした項目を確認して、使い方を一読してから、「インストール」ボタンを押します。

使い方については、拡張機能を(インストール済みの)リストから選んで選択すればいつでも見られます。

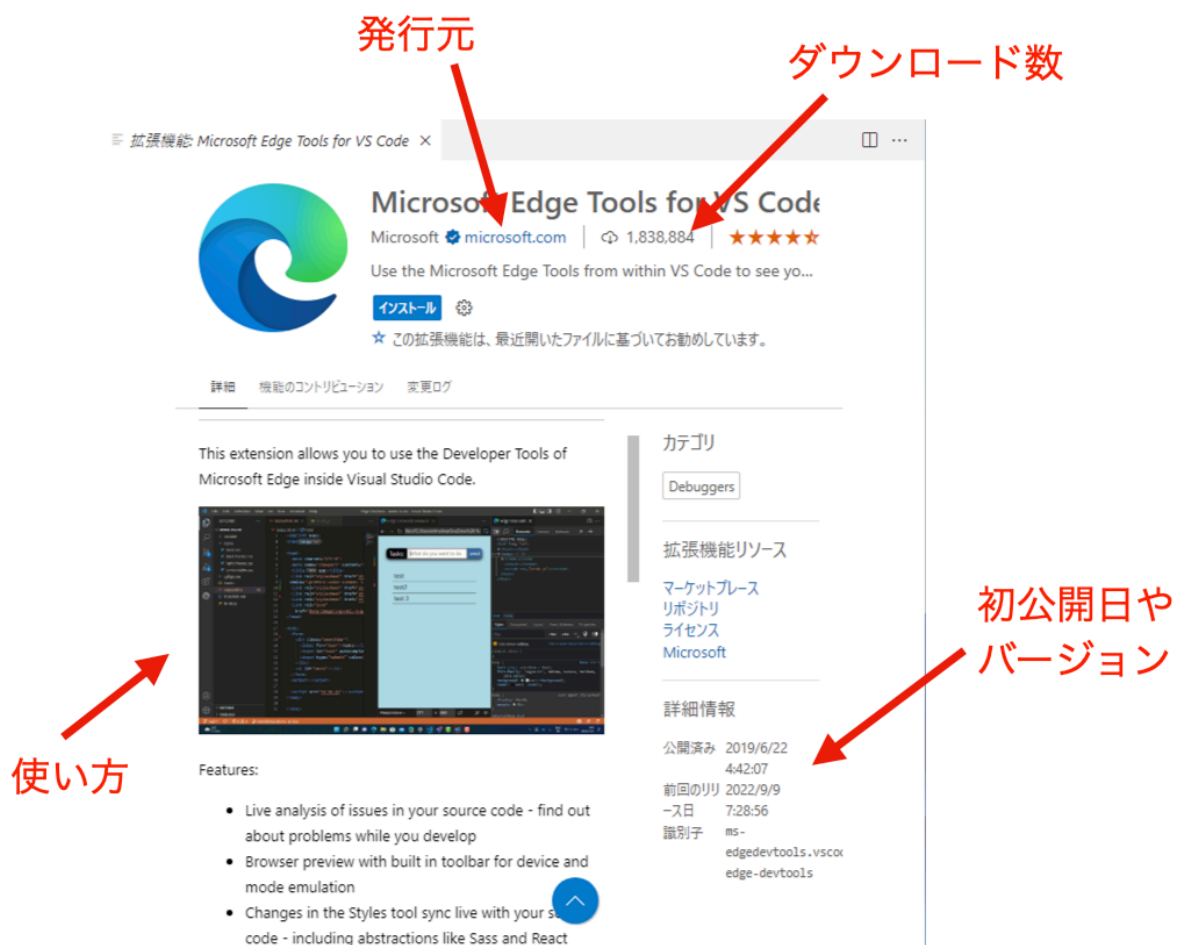


図5 インストールする前に確認する項目

拡張機能でできること

●「Microsoft Edge」の例

拡張機能でできることはそれぞれ違いますが、たとえば「Microsoft Edge」の場合は、HTML ファイルを右クリックすると、「Open with Edge(Edge で開く)」というメニュー項目が出てきます(ブラウザの実行結果だけを見るか、Microsoft Edge の開発ツールも表示するかという選択があります)

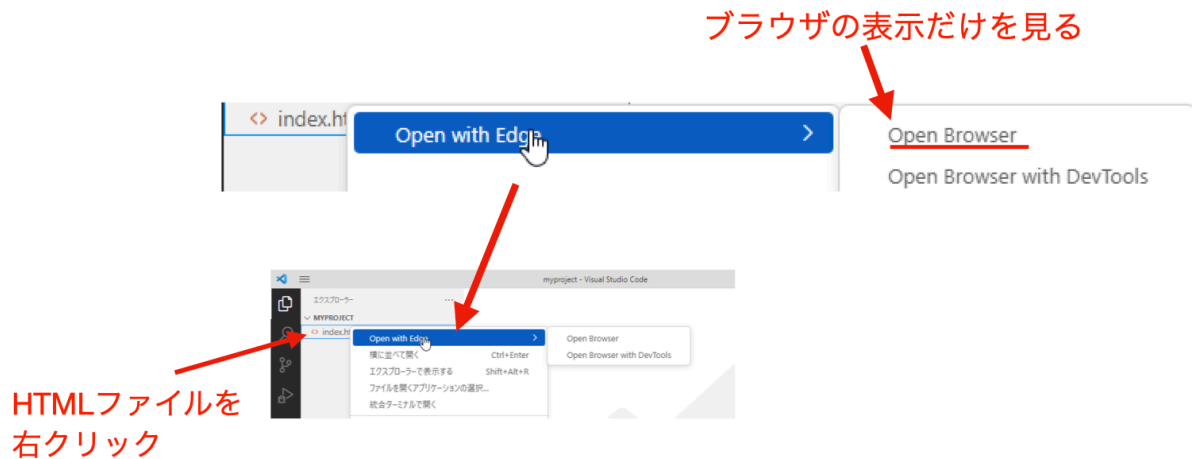


図 6 拡張機能でしか表示されない右クリックメニュー項目

図7は、ブラウザの実行結果だけを VSCode 上に表示させた様子です。

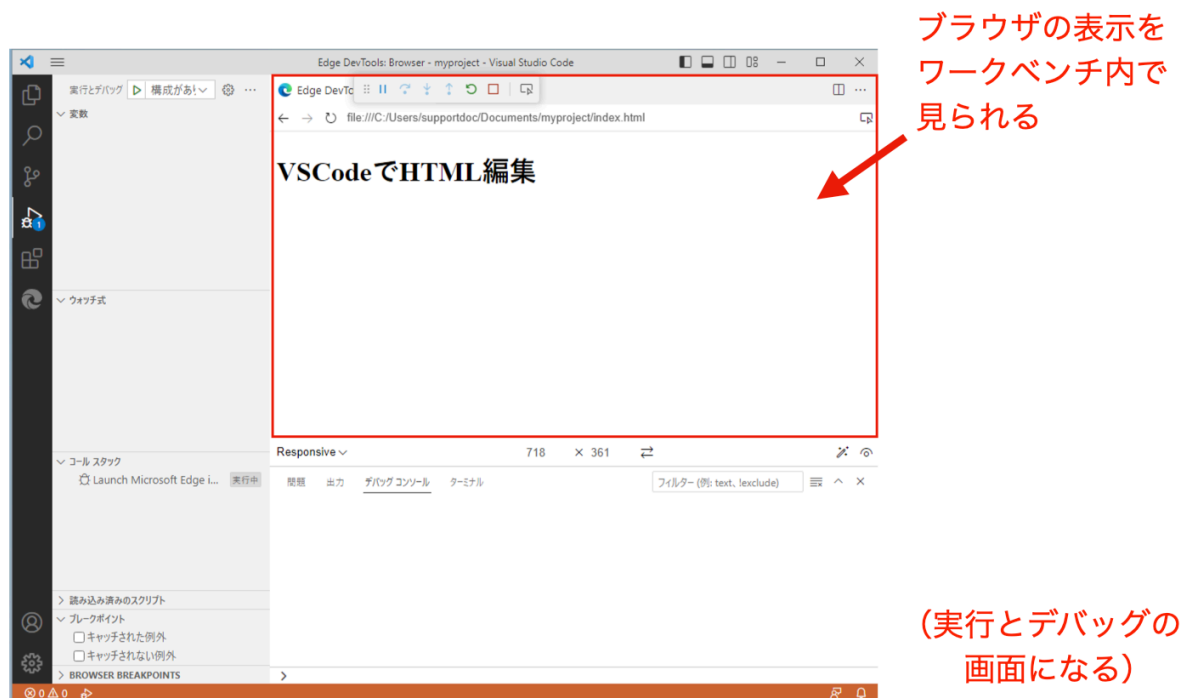


図 7 ブラウザの実行結果を VSCode 上に表示できた

拡張機能の使用を中止または停止する場合

●アンインストールまたは無効化

インストールした拡張機能は、アンインストールまたは無効化できます。無効化の場合、インストール作業を再び行なわなくとも、有効化すれば使えるようになります。

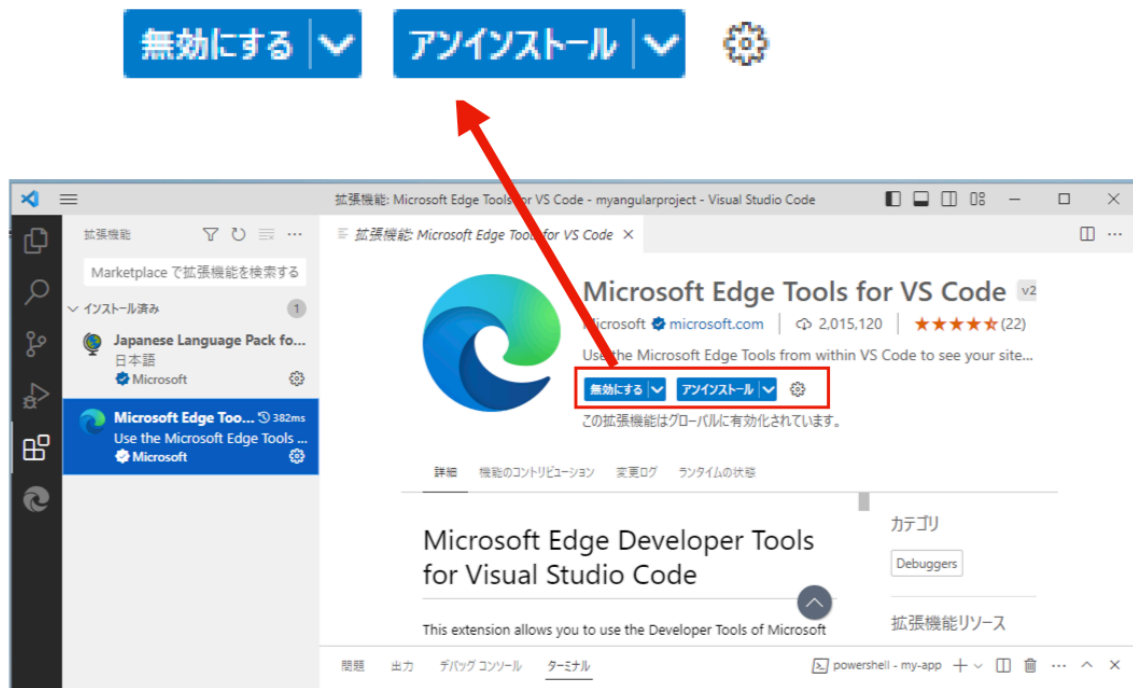


図 8 アンインストールまたは無効化できる